

総論

満点	100点	目標得点	75点	試験時間	60分	偏差値	法律:77 政治:76
大問数	4	小問数	50				
	【解答形式】	選択式	50/50問	記述式	0/50問	論述式	0/50問
	【問題難易度】	C	13/50問	B	31/50問	A	6/50問

※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す

Topics

- 1：全て選択肢からのマーク方式
- 2：文章力の強化を。暗記だけに頼った勉強法では対応できない
- 3：現代史や文化史など受験生の苦手分野から多数出題

こんな力が求められる！

一問一答だけの勉強では解答することがおぼつかないだろう。答として何が求められているのかを、前後の文脈から正確に判断していく、文章の読解力や発想力が必要になる。受験生が苦手とする分野からも多く出題されているので、学習していない分野を残さないことが大切。

参考図書

お茶ゼミテキスト、お茶ゼミ問題集、教科書、用語集、史料集・図説（地図が記載されているもの）

データ&全体傾向

〔法律学科〕

前年度(2008)合格者最低点（英語・地理歴史・論述力）…276点（得点率69.0%）

前年度(2008)受験者平均点（世界史）…50.94点

〔政治学科〕

前年度(2008)合格者最低点（英語・地理歴史・論述力）…276点（得点率69.0%）

前年度(2008)受験者平均点（世界史）…54.43点

多くの大学で出題される正誤判断の問題は皆無（昨年度は出題されたが、今年度はなくなった）。空欄補充と一問一答形式だけなので、余計な気を使う必要がないともいえる。しかしリード文からよく練られており、解答の導き方も単に一問一答形式の勉強をしていただだけでは不可能な出題になっている。また、文化史・戦後史など受験生の手のまわらないテーマ、そして東欧や東南アジア・ラテンアメリカといったこれも後回しにしがちな地域の出題が多く、また用語集における頻度の少ないものの出題例も多い。そういう意味では重箱の隅をつつくかのような問題になっており、学習量の差がそのまま点数になって跳ね返ってくるだろう。お茶ゼミでは東欧史やラテンアメリカ史を独立し講義しているので、お茶ゼミ生にとっては有利であったと思われる。合格答案をみても、お茶ゼミ生の答案は平均して約70点程度の得点を挙げている。普段の学習では、多くの問題に対応することが慶應義塾大学の法学部の入試対策に直結することは間違いない。

大問別分析

【問題Ⅰ】

予想配点 24 / 100 点	時間配分の目安 14 / 60 分
出題分野・テーマ 香辛料の歴史	出題形式 選択

●内容分析（小問別難易度&お茶ゼミカリキュラムとの関連&学習対策など）

全て選択肢からの空欄補充形式。テーマは香辛料の歴史であり、比較的なじみやすいと思う。リード文全てを読んで解答する必要性はないが、勉強になるので一度読んでおくとよい。

○A：正答すべき問題（×1） (03) (04)

○B：合否を分ける問題（×7）

(01) (02) …文化史の設問なので、手がまわらない受験生もいるかもしれない。が、古代の西洋文化で地理学とくればストラボンしかでてこない。

(05) (06) …ヒントのメガステネスは前期の早慶テキストには掲載されているが、細かい。が、アレクサンドロスの侵入によってインドに統一の気運が高まりマウリヤ朝が成立したという流れを理解しておけば、時代が特定できる。単純な暗記だけに頼ってはい解けないが、このような問題が差をつけていく。

(07) (08) …最初の空欄と同じく、文化史関連なので差がついてしまう。慶應義塾大学では比較的文化史の出題頻度が高いので、手を抜いてはいけな。夏期講習の文化史をおろそかにしないように。

(13) (14) …「キンザイ」とは「行在」と書く。華北を異民族（女真族の金朝）に支配された漢民族国家の南宋が、「たまたま南に行って、皇帝が存在する」という意味合いをもたせている。泉州と間違えるかもしれないが、こちらは「ザイトゥーン」といい、こっちの方が有名で、イブン=バトゥータも言及している。

(15) (16) …現在の世界情勢などにも興味を持っていれば、ニュースにも出てくる民族なので知っているかもしれない。講師の雑談にも出てくるであろう民族だが、雑談も雑談として聞き流すことはしてはいけな。入試問題にも、大学側は現在の社会情勢に興味・関心を持っているかを問おうという姿勢を持っている。時事問題にも注意するように言われるのはこのため。実際に2009年度入試では北京オリンピックやチベット問題（2009年はチベット独立暴動以来50年が経つ）にからめた問題も多く見られた。

(19) (20) …1505年にポルトガルが到着したということと、シナモンやカルダモの産地というヒントだけでは難しいかもしれない。この時点ではゴアを占領していないため、選択肢からの消去法を用いると、正解に近づくだろう。

(21) (22) …ペルシア湾口と、サファヴィー朝が奪回したという部分がヒントになる。アッバース1世がポルトガルから奪い返している。

○C：難問（×4）

(09) (10) …『五経正義』と聞くとつい孔穎達になるが、選択肢にない。『用語集』には掲載されているが、消去法で判断できるか。

(11) (12) …これも消去法で対応できる。直前の東洋文化史で覚えていればラッキーだと思おう。

(17) (18) …ゴアではインド西岸になってしまう。スーラトは聞いたこともないと思う。できなくてもよい問題。

(23) (24) …後期テキストには掲載されているが、サファヴィー朝滅亡後の分裂期の理解ができてい

【問題Ⅱ】

予想配点 24 / 100 点	時間配分の目安 14 / 60 分
出題分野・テーマ ラテンアメリカ史	出題形式 選択

●内容分析（小問別難易度&お茶ゼミカリキュラムとの関連&学習対策など）

ラテンアメリカ史はお茶ゼミのカリキュラムでは 2008 年度には冬期講習で実施した。かなり詳細な知識も掲載されているので、直前に知識を仕込んだ人はラッキーだっただろう。来年度は多少のカリキュラムの改定があるので、これは今年度だけのことだが、慶應義塾大学ではアメリカ史は頻出なので、来年度以降も気をつけること。ちなみに商学部でもラテンアメリカの地図問題が出題されている。

○A：正答すべき問題（×1） (39) (40)

○B：合否を分ける問題（×7）

(27) (28) …コルテスやピサロらコンキスタドレスの活躍期、または 16 世紀前半のスペイン王で考えればよい。カルロス 1 世と神聖ローマ皇帝カール 5 世が同一人物だということは、授業中に何度も出てくるはず。これを落としてはいけない。

(29) (30) …アメリカ史で登場。近年、教科書にも徐々に浸透してきている。インカ族とも表現されることがあるが、インカとは「太陽の子」の意味である。部族名をきかれたらば、通称は避けること。

(31) (32) …ヒントは「委託」という意味だということと、先住民に対する使役の方法という点。銀山労働がすでに出ているので、農業労働だと考え、16 世紀に新大陸で行われていた農業形態を考えればよい。

(33) (34) …一応、標準のカテゴリーに入れておいたが、難問に近いかもしれない。しかし実はアシエント（奴隷供給契約）は、近年の入試において出題頻度が急増している。とくにユトレヒト条約との関連で問われることが多い。前述のアメリカ史において学習している。来年度以降も注目の用語である。

(37) (38) …難しいと思うかもしれないが、ブラジルの政治家として名前を覚えておかななくてはならないのはヴァルガスだけ。時期も合わせて覚えられれば御の字。

(43) (44) …ハイチの独立運動につながっていく黒人の反乱である。世界初の黒人共和国となるので、このような初物はさらに突っ込んだ学習が必要であろう。

(47) (48) …問題のテーマとなっている地がハワイと気付けるかが最初のポイント。日系の移民が多い王国というのがヒント。ハワイの歴史もアメリカ史に付随するオセアニア史で講義している。

○C：難問（×4）

(25) (26) …ヴェルデ岬がアフリカ大陸の西岸であり、1445 年にエンリケ航海王子の探検隊が到着した地だとは知っていても、その名にちなんだこの島々を知るものは少ないだろう。ここは現在はカーボベルデ共和国という独立国となっている（1975 年にポルトガルから独立）。

(35) (36) …アフリカ史は後期の講義で実施するが、アフリカの地図が頭に入っていないと苦しいかと思う。

(41) (42) …近年、世界の交流というテーマの一環として、船の歴史が注目されている。有名な所では中国のジャンクやムスリム商人のダウ船があるが、それ以外にも注目しておくといよい。

(45) (46) …用語集では頻度①だが、慶應義塾大学ではこのようなところを狙ってくる。やはりアメリカ史のテキストに掲載されている。

【問題Ⅲ】

予想配点 26 / 100 点	時間配分の目安 16 / 60 分
出題分野・テーマ 感染症の歴史	出題形式 選択

●内容分析（小問別難易度&お茶ゼミカリキュラムとの関連&学習対策など）

文化史・社会史系の問題が多いため、学習の追いついていない受験生には酷だったろう。逆に言えば、穴のない勉強をしていれば対応できるし、問題自体も必ずしも難問ばかりではないので、点数を稼ぐことができる。

○A：正答すべき問題（×2） (63) (64)・(71) (72)

○B：合否を分ける問題（×8）

(51) (52) …ハーヴェー自身はそれほど難解な言葉ではない。しかし明確に血液循環というヒントが提示されているわけではない（著書の名前から推測するしかない）ので、文章力が養われていないと苦しいかもしれない。

(53) (54) …世界史選択者でデカルトを知らないということはないだろうが、やはり直接的なヒントがあるわけではない。空欄直後の「演繹法や合理論を説いた」という部分から判断すること。

(57) (58) …感染した後に免疫ができるという点で、ジェンナーを思い出せば解答できるだろう。

(59) (60) …ヴォルテールの著作『寛容論』はあまり知られていないが、文化史の頻度の高い慶應義塾大学では主要人物の著作では代表作の次くらいに有名な物まで知っておきたい。

(61) (62) …年号からだけでは対応するのは難しいが、「戦場であったインド中央部」という表現からマラーター戦争を導く。イギリスがどの戦争でどの地域を支配していったかを理解してあれば解答はできる。

(65) (66) …オーウェンが空想的社会主義者だということに気付くこと。そうすれば、労働問題または社会問題に関する語句が入るとわかる。そのうえで、1833年という年号から業績を考えていくとよい。

(69) (70) …「事業」とあるので、選択肢からある程度推測していくこと。その中から20世紀になって成果を挙げたものを選んでいけばよい。パナマ運河はフランス人技師のレセップス（スエズ運河を開削している）が開削を進めたが挫折し、その後コロンビアからパナマを独立させたのちにアメリカが運河を建設した。運河の開通は1914年である。

(73) (74) …ジョージ2世がハノーヴァー朝のイギリス王だということに気付けばすぐに解ける。ジョージ2世の父はドイツのハノーヴァー選帝侯だったため、英語が話せず、議会政治が発達したことを思い出そう。

○C：難問（×3）

(49) (50) …「マルクス=アウレリウス=アントニヌス帝の侍医」というヒントからガレノスを導くのは難解。お茶ゼミでは夏期講習の文化史でガレノスは登場する。彼が問題となる場合は、ここで出題されたパターンのみしか聞き様がない。なので、文化史の講義をちゃんと受けていれば、記憶に残るはずだが。

(55) (56) …19世紀にイギリスが撤退していたという部分しかヒントがない。あとは選択肢の語句からの消去法しか対応方法がない。できなくとも仕方のない問題。

Benesse® お茶の水ゼミナール

(67) (68) …チャドウィックの名前は後期テキストの英仏関連史に登場する。用語集にも頻度は少ないながらも掲載はされているが、正直、なかなか覚えていない人物であろう。

【問題Ⅳ】

予想配点 26 / 100 点	時間配分の目安 16 / 60 分
出題分野・テーマ 戦後史（東欧・インドシナ）	出題形式 選択

●内容分析（小問別難易度&お茶ゼミカリキュラムとの関連&学習対策など）

若干の例外はあるが、受験生にとって手のまわらない戦後史、しかも東欧と東南アジアと苦手な人には全く手の出せない範囲からの出題だった。学習の絶対量において大きく差が出たことであろう。出題方法は他の3題と大差なく、文中の空欄と下線部の短答問題であり、全て選択スタイルである。

○A：正答すべき問題（×2） (75) (76)・(77) (78)

○B：合否を分ける問題（×9）

(79) (80) …アルバニア自体がマイナーな国のために、ないがしろにしていると対応できなくなるだろう。冷戦の構造、特に東側の多極化を丁寧に勉強していれば正解できる問題。

(81) (82) …まず該当の国家がチェコスロヴァキアであることを把握し、その上で自由化後の指導者を考えなくてはいけない。通り一遍の学習では対応できないことを再確認すること。東欧革命後の各国の指導者は頻出事項なので、後期の東欧史が終わった後にまとめてみるとよいだろう。

(83) (84) …ユーゴスラヴィアの解体に関する設問。2006年の独立という年号での理解だけでなく、六カ国目の独立という順序からも推測すること。世界史の入試問題では21世紀に入って以降の事項も出題される。

(87) (88) …シハヌークとしてしまうかもしれないが、空欄の後ろに「政権」という語句があるので、政治担当者を解答する。冬期講習での範囲であるから、しっかりと復習を実施していれば大丈夫だと思うが…。

(89) (90) …ワルシャワ条約機構に加盟しながらも、チェコスロヴァキアへの軍事介入（チェコ事件）に参加しなかったのはアルバニアとルーマニア。当時のルーマニアはチャウシェスクのもとで独自路線化を進めていた。

(91) (92) …清仏戦争の講和条約である天津条約、およびその調停を実施した「第三国」がどこなのかをまずは判断しないといけない。ここでの「第三国」とはイギリスのこと。イギリスはコンバウン朝を滅ぼし、1886年にビルマ（ミャンマー）をインド帝国に併合した。この1886年という年が、フランス領インドシナ連邦の成立した1887年の前年だということにも気がついて欲しい。

(95) (96) …ひねった問題が多い中で、ストレートな聞き方をしている。易しい問題が少ないので、取りこぼさないで欲しい。

(97) (98) …ベトナム戦争に介入した国家としてはアメリカ以外に韓国が有名だが、SEATO加盟国という条件で外れる。当時、主張されていたドミノ理論と東南アジア方面の地図でオーストラリアを思い浮かべられるか。難問に近い。

(99) (100) …民主カンブチア（民主カンボジア）とはポル=ポト政権であり、この政権はベトナムの支援を受けたヘン=サムリン軍によって打倒された。そのベトナムと中国（中華人民共和国）は対立していた（1979年2月に中越戦争が勃発している）、という国際関係を把握しておくこと。問題文の「すでに国連加盟国であった」という意味深な一文もヒントになる（中華人民共和国の国連加盟は1971年）。

○C：難問（×2）

(85) (86) …ベトナム光復会は2009年度の東大でも短答問題で出題されている。両方を受験し、かつ復習している受験生にとっては幸運な出題であろう。ファン=ボイ=チャウの活動では維新

Benesse® お茶の水ゼミナール

会と東遊運動が有名であるから、プラスアルファの学習をしていないと知らない知識になるだろう。

- (93) (94) …ラオスではランサン王国が18世紀初期に3カ国に分裂し、やがてそれぞれがフランスに支配された。その中で王国の名前を存続させたのがルアンプラバーン王国であり、第二次世界大戦後にラオス王国として独立した際も、ルアンプラバーン王国系の国王が即位した。ルアンプラバーン王国は用語集にも掲載されているが、頻度が少なく、難問である。